

「岩切おもしろ寄席 2024」レポート

2024年11月10日午後1時30分、岩切市民センター体育館で開催した「岩切おもしろ寄席」は、笑いと感動に包まれたひと時となりました。本イベントは「仙台新選落語会」所属のアマチュア落語家お二人による落語、岩切の著名人が回答者として出演いただいた大喜利、そして第10



回フランク永井歌コン優勝者による歌謡ショーで構成し、観客との距離が近い暖かな雰囲気 of 寄席となりました。

第一幕：落語

最初のプログラムは落語。仙台で人気のアマチュア落語家お二人が、日常をテーマにしたユーモラスな話を披露しました。一席目の「一目上がり」では、独特なテンポと言葉遊びが観客の笑いを誘い、演者の巧みな演技で物語の世界観が見事に再現されました。特に主人公の行動に観客席には爆笑が絶えませんでした。続く「道具屋」では、商売の滑稽さを描いた演者の迫真の表現が際立ち、ユーモアあふれる場面転換には観客席からは盛大な拍手が送られました。

第二幕：大喜利

IOC（岩切おもしろ倶楽部）会長が司会を務め、岩切の著名人が回答者として登場した大喜利コーナーは、まさに笑いの渦に包まれました。

最初のお題は謎かけ問答。テーマは「秋」と「夏」。回答者たちは、それぞれの季節の情景を織り交ぜながら見事な謎かけを披露しました。次のお題では、回答者が小道具を使い、ユニークな動作を披露しました。この二つのお題に対し、回答者が繰り出す見事な“ひねり”や、絶妙な“おち”には、観客席からは拍手喝采。締めめの最多獲得者への優勝賞品授与のシーンでもこれまた面白く、奇想天外の商品に観客が椅子から転げ落ちそうになるほどの笑いが広がりました。

終始捧腹絶倒だった大喜利コーナーは、岩切の著名人たちのユーモアセンスと司会者の巧みな進行で、大成功を収めました。観客からは「腹筋が痛くなるほど笑った」「こんなに楽しい大喜利は見たことない」と絶賛の声が相次ぎ、岩切おもしろ寄席 2024 のハイライトのひとつとなりました。

第三幕：歌謡パフォーマンス

岩切おもしろ寄席 2024 のフィナーレを飾ったのは、第 10 回フランク永井歌謡コンテスト優勝者による歌謡ステージ。昭和歌謡の巨匠・フランク永井の名曲 8 曲を披露し、観客を魅了しました。

パフォーマンスは「君恋し」からスタート。しっとりとした歌声が会場に響き渡り、冒頭から観客の心をつかみました。続く「おまえに」では、深い感情が込められた歌唱に、観客の目が潤む場面も。続いて「公園の手品師」では、情景が浮かび上がるような独特のメロディと歌声が会場を包み込みました。

第 4 曲目には、コンテスト優勝曲でもある「妻を恋うる唄」が披露されました。優勝者が特別な思いを込めて歌い上げるこの曲に、会場中が感動に包まれ、静かに耳を傾ける観客の姿が印象的でした。

後半は一転、明るく軽快な「東京カチート」が披露され、観客の手拍子が自然に生まれました。さらに「ラブレター」ではロマンチックな雰囲気漂い、「六本木ワルツ」ではリズムに乗せたエレガントな歌唱が観客を魅了。

そしてアンコールに応えて披露されたのは「好き好き好き」。観客からの拍手に包まれる中、情熱的で軽快な歌声が会場を盛り上げ、見事に締めくくられました。観客からは「一曲ごとに昭和の名曲の魅力を思い出し、心が温かくなりました」

「『妻を恋うる唄』の感動は忘れられません」といった声が多数寄せられました。

フィナーレ

ラストのフィナーレでは出演者全員が舞台に上がり、観客に感謝の挨拶をしました。全員で手を振り深々とお辞儀をすると、会場からは割れんばかりの拍手と歓声が送られ、感動的なフィナーレとなりました

事務局から

岩切おもしろ寄席 2024 を笑顔と感動で締めくくることができ、観客と出演者が一つになれる特別な時間となりました。この経験を糧に、次回はさらに楽しい時間を提供できますようスタッフ同頑張って参りますので、よろしくお願い致します。

IOC（岩切おもしろ倶楽部） 嘉藤和男